

白鶴美術館



- 神戸市東灘区住吉山手6-1-1 TEL.FAX 078-851-6001
阪神御影駅、JR住吉駅から市バス38系統渦森台行「白鶴美術館前」下車
阪急御影駅から北東約1km（徒歩15分）
阪神高速道路3号神戸線、大阪方面から魚崎出口より1km
姫路、明石方面から摩耶出口より6km
無料駐車場あり（大型バスも可）
- <月曜休館> 但し9月19日（月）、10月10日（月）は開館、
9月20日（火）、10月11日（火）を休館
 - <開館時間> 午前10時～午後4時30分（但し入館は午後4時まで）
 - <入館料> 大人：800円 大学・高校生：500円 中・小学生：250円
（団体20名以上は割引あり）

白鶴美術館は昭和9年（1934）に開館しました。当館の創立者白鶴酒造七代目嘉納治兵衛（1862～1951年、奈良興福寺唐院お蔵預りの家に生まれる、晩年鶴翁と号す）は、最も多感な時期に第一次奈良博覧会（明治8年 1875）等の看守を務め、奈良の寺宝を目の当たりにするという好運に恵まれています。後年大きく花開く美術愛好精神を育み、国宝「賢愚経」（奈良時代、東大寺伝来）、重文「金銅小幡」（白鳳時代、法隆寺伝来）をはじめ古寺伝来の名宝を招き寄せる遠因となりました。

明治20年（1887）嘉納家に婿入りし、当時窮地にあった清酒「白鶴」を隆盛へと向かわせ、明治30年代に待望の古美術品蒐集を始めました。その記念すべき作品が、「煎茶」の理想の境地を象徴する「清風」が吹き渡って来るよう

な田能村竹田筆「金箋春秋山水図屏風」（六曲一双）です。

やがて抹茶の茶の湯に打ち込み、120回以上に亘る茶会を催すこととなります。その際、縁あって自己の有に帰した美術品を披露するのを無上の喜びとしました。自ら道具茶・美術茶と語るその絢爛豪華な茶会は、優れた作品との出会いがなくては叶いません。それ故、大正末年辺りから美術館の開館前後まで陸続として出現した商周青銅器、唐時代銀器・鏡、唐・宋・明時代の陶磁器等には心躍らせたと思われます。これら中国工芸の名品との邂逅が、鶴翁の茶道衆楽の心をより一層弾ませ、美術館創設へと邁進したのです。

今秋、『古代中国青銅器 神秘の心を見つめて』（本館）と題して展覧会を行います。展示の中心は重文「饗



饗饗夔龍文方卣(商時代) 重文「象文卣(臣辰卣)」(西周時代)をはじめ商周時代の青銅器約30点です。その器表に施された鮮やかな鑄上がりの奇怪な文様の数々、饗饗文、夔鳳文、夔龍文などは単なる装飾といえますより、人々の願い、恐れを始めとする深い心の顕現なのです。

加えて、絶妙の鋳起技法による洗練された器形、力強い蹴り彫り文様、さらに整然と密に打たれた魚々子文の、重文「鍍金龍池鴛鴦双魚文銀洗」、重文「鍍金狩獵文六花形銀杯」など、唐代金工家の驚異的な技巧や集中力を物語る傑作銀器や鏡等も展示します。

中国金工作品の粋を心ゆくまでご堪能下さい。

(白鶴美術館学芸課長 山中 理)



鍍金狩獵文六花形銀杯(とくしんしりょうもんろくかがたぎんばい)

中国 唐時代 高5.4cm 口径8.7cm 重要文化財

杯身を六弁の花形に深く打ち出し、その器表に弓矢、投げ縄、槍、先端の曲がった棒状の狩獵具を手にした六人の騎馬人物が、草花の間を縫って、雌鹿、山羊、狐等の走獸を追いかける様が、力強い蹴り彫りで、のびのびと表されています。この画面の振り返りざまに矢を射る(パルティアン・ショット)狩人は左から走り来る山羊を狙っています。その下のひょうきんな様子の鴛鴦らしき2羽の鳥は、どの狩人からも狙われない安全地帯にいます。唐代工人はウォルト・ディズニーより1200年以上前に、謂わばDonald・ダックを生み出していたのです。



饗饗夔龍文方卣(とうてつきりゅうもんほうゆう)

中国 商(殷)時代 通高39.2cm 口径11.4cm 重要文化財

卣は祭祀に用いられた盛酒器で、取っ手と蓋を伴っています。取っ手は双頭単胴の虺龍を象り、商時代、その姿は天より降って河水を飲む龍形の獣とも考えられ、虹がまさにそれだと信じられていました。また、猛毒の百歩蛇モデル説もあります。鳥形の鈕を持つ半球形の蓋には板状の夔龍形が着装され、もとはその環状の尻尾が取っ手内側に作り出された半環(欠失)と連結するなど、複雑な鑄造がなされていました。

やや裾広がりの方形の胴部には、各角を鼻筋として力強い半肉彫りの羊角をもった饗饗文が目立っています。その目に注目して下さい。黒目に当る目玉が目尻寄りに表され、饗饗は八方睨みをして、神々や祖先の靈に捧げる大切なお酒を、魑魅魍魎からしっかり守っているのです。

企画展などの御案内

白鶴美術館秋季展『古代中国青銅器 神秘の心を見つめて』(本館)

新館開館10周年記念『文様の宝庫 オリент絨毯』(新館)

会期 2005年9月6日(火)~11月27日(日)

<講演会>

「東西文明の掛け橋 イスタンブール」

講師 京都外国語大学教授

(国際言語平和研究所所長)堀川 徹氏

日時 2005年10月23日(日)午後2時から

<スライド解説>

毎月第2・4日曜日午後2時から(但し、演奏会、講演会と重なる場合は中止とさせていただきます。)